

指数の変動にいくつかの規則性のあることがわかったので、今後これらの規則性について統計的ならびに総観的調査を進めてゆけば週間予報や長期予報に役立つ知識が得られるものと思われる。

### 文 献

- 1) 気象庁: 北半球 500mb 等圧面高度半旬平年値, 1959.
- 2) Suda, K.: A study on the dynamic climatology of cold-outbreaks in the Far East, Geophys. Mag., vol. 29. (1959), pp. 413~461.
- 3) La Seur, N. E.: On the asymmetry of the middle-latitude circumpolar current, Journal of Meteorol. vol. 11 (1954), pp. 43~57.
- 4) 小林典謙 (1956): 周極流の非対称性について, 研究時報, 8, 503~507.
- 5) Petterssen, S.: Weather Analysis and Forecasting, Second edition (1956), Mc Graw Hill, New York, Chapter 13.
- 6) Allen, R.A., R. Fletcher, J. Holmboe, J. Namias and H.C. Willett: Report on an experiment in five-day weather forecasting, (1940), Papers in Phys. Oceanogr. and Meteorol., MIT 8(3).
- 7) Namias, J.: Extended Forecasting by Mean circulation Methods (1947), U.S. Weather Bureau, Washington.
- 8) H. Kato.: Southward propagation of pressure waves on the hemispheric-scale, Journal of the Meteorol. Soc. of Japan, Ser. II, vol. 40, pp. 51~62.

## 日本気象学会 昭和39年度関東・中部地区気象研究会 東京管区気象台

会期 昭和39年11月24日(火) 10時~11月25日(水) 12時

会場 気象庁第1会議室

第1日 11月24日(火) 10時~17時

### 研究発表

1. 津林喜尚・牧石敬二(富山気象台): 自記雪量計を利用し、無線ロボット雨量計を冬季使用する試みについて (20分)
2. 三宅勉・世古明夫(横浜気象台): うねり予報の実用化に関する調査(相模湾付近におけるうねりと浅海効果を考慮した湘南海岸のうねり予報) (25分)
3. 杉本豊(東京航空気象台): 初秋より冬季にかけての成層圏循環と下層気圧場との関連 (20分)
4. 星野常雄(富崎測候所): 千葉県内の天気のエントロピーについて(Ⅱ) (20分)
5. 進藤勉(水戸気象台): 局地気象解析における地形の影響 (30分)
6. 宇田川和夫(長野気象台): 松本の南風の発生機構について (25分)
7. 中山章(東京航空気象台): 集中豪雨(積乱雲発達)に及ぼす地形効果と場のじょう乱についての解析例 (25分)
8. 安田浩(静岡気象台): 台風の降雨帯解析 (20分)
9. 小楠純一・鈴木乙一郎(静岡気象台): 1964年6月

27日の静岡県山沿いの局地的大雨 (30分)

10. 西尾厚治(名古屋気象台): レインバンドの移動速度のベクトル解析 (20分)
11. 宮沢清治(新潟気象台): 降雪バンドのメソ解析 (25分)
12. 瀬下慶長(東京管区気象台): 豪雪時における雪の降り方について (25分)
13. 福原耕二(新潟気象台): 雪の予報について(第5報) (25分)

### 特別講演

吉野正敏(東京教育大): アルプス地方の小気候の研究について (60分)

第2日 11月25日(水) 9時30分~12時

### 研究発表

14. 毛利聡明・渡辺義雄(東京管区気象台): 中部日本における気象災害の起り方について(第2報) —災害分布図の作成— (25分)
15. 内田正昭(前橋気象台): 群馬県における注意報・警報の基準について (30分)
16. 橋本梅治・鈴木義男(東京航空気象台): 煤煙の移流と大気汚染の日変化 (25分)
17. 関谷溥(軽井沢測候所): 昭和39年3月の浅間山の頻発地震について (25分)